

2024年度入試

入学試験問題集

【応用心理学部 健康・スポーツ心理学科】



東京成徳大学

TOKYO SEITOKU
UNIVERSITY

目 次

総合型選抜 9月入試 小論文	1
総合型選抜 10月入試 小論文	2
総合型選抜 12月入試 小論文	3
学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試） 小論文	5
スポーツ特待生入試 小論文	7
出題意図・解答例	8

※一般選抜 D 日程入試は、志願者がいなかったため実施していません。

「一般選抜 A 日程・B 日程・C 日程」の問題は、
「2024 年度入試問題集 一般選抜 A 日程入試・
B 日程入試・C 日程入試」に掲載しています。

●総合型選抜 9月入試

【小論文】（試験時間：60分）

以下の文章を読んで、次の二つの設問に答えなさい

埼玉県では、エスカレーターの安全な利用の促進に関する条例（令和三年十月一日施行）を定めている。エスカレーターを利用する者は、立ち止まった状態でエスカレーターを利用しなければならない（第五条）とされている。これは、エスカレーターをより安全に利用できるようにすることがねらいとされている（第一条）。エスカレーターは歩行を想定して作られてはいないため、実際に歩行が原因と考えられる事故が多発している。2018年、2019年に全国で発生した1550件のエスカレーター事故のうち805件が立ち止まらず歩くことを含む「乗り方不良」によるものだった（日本エレベーター協会、2020）といったデータも示されている。令和4年7月25日からはJR東日本を含み、全国の鉄道事業者56社局・4団体や空港施設、商業施設、自治体と共同で、エスカレーターの安全利用を呼びかけるキャンペーンも実施されている。

しかし、この条例が施行されてから2年近く経っているにも関わらず、埼玉県内でもいまだに多くのエスカレーターで右側を空けて左側に並ぶ、右側を歩いたり、走ったりする光景がよく見られる。年齢に関係なく高校生でも同様である。条例違反の違法行為やそれを容認するような行動をするのはなぜだろうか。よく急いでいるからといったことを聞くが、それなら隣の階段を歩くこともできるし歩いても数10秒も変わらない。急いでいるからではなく、「できるだけ早く行きたいという気持ち」と「じっと立っているという自分の行動」とが矛盾することの不快感が我慢できないのかもしれない。他にも様々な理由が考えられるが、必ずしも十分な実証的な研究が行われている状況にはないようだ。

なぜ条例違反の違法行為であるにも関わらずエスカレーターで歩くのだろうか。なぜ違法行為を容認するように右側をあげて立つのだろうか。

設問1 「エスカレーターで歩くこと」「右側を空けて立つこと」のどちらかを選び、その理由についてあなたの考えを200字以内で述べなさい。

設問2 設問1で答えたあなたの考えを確かめるための高校生を対象にした調査を具体的に考え、目的、質問項目、実施方法、集計方法など調査の概要を600字以内で答えなさい。

参考文献

埼玉県エスカレーターの安全な利用の促進に関する条例

<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/135576/jyoubun.pdf>

日本エレベーター協会「エスカレーターにおける利用者災害の調査報告（第9回）」

https://www.n-elekyo.or.jp/about/elevatorjournal/pdf/Journal31_11.pdf

総合型選抜 10月入試

【小論文】（試験時間：60分）

以下の文章を読んで、次の二つの設問に答えなさい。

人生をより良いものにしたいという願いは、人類共通のものである。例えば、健康であること、愛されること、仕事で成功すること、地域や社会に貢献することなどを通して、幸福で意味のある人生を歩みたいと誰もが考えていることだろう。

ところで、良い人生というものを考える時、「幸福な人生（“happy life”）」と「意味のある人生（“meaningful life”）」はそれぞれどのような人生を指すのであろうか。これを明らかにするために実施された調査（Baumeister et al., 2013）の結果によれば、他者とのつながりに恵まれ、生産性を発揮し、刺激的であることが、両者の共通の要素であることが明らかとなった。一方、欲求の充足、遭遇する出来事、他者との関係性、焦点を当てている時間には違いがみられた。「幸福な人生」は、欲しいものが手に入ること、ポジティブな出来事が多くネガティブな出来事は少ないこと、他者から受け取ることと関連があり、現在のみ焦点が当たっていた。「意味のある人生」では、対照的に、欲しいものが手に入るかどうかとは関連がみられず、ポジティブな出来事とネガティブな出来事の両方が多いこと、他者に与えることと関連があり、過去・現在・未来のすべてに焦点が当たっていた。また、「幸福な人生」は、私たちの生物としての根源的な欲求に根ざしているが、「意味のある人生」は文化や個人の価値観と深く関わる。

「幸福な人生」と「意味のある人生」との間に違いはあるが、より良く生きようとするにあたり、どちらを目指すべきかという問いに対する正解はない。社会や個人が置かれている状況や考え方によって、何が求められるかも変わるのである。

設問1 本文の内容を要約しなさい（200字以内）。

設問2 本文の内容を踏まえ、あなたは将来社会で働く上で、「人々の人生を幸福なものにすること」と「人々の人生を意味のあるものにすること」のどちらの側面に重点を置いて貢献したいと考えるか。自身の立場を明らかにした上で、物事や社会に対する自分なりの見方を示しながら、そこでの貢献のあり方を具体的に述べよ（600字以内）。

引用文献

Baumeister, R. F., Vohs, K. D., Aaker, J. L., & Garbinsky, E. N. (2013). Some key differences between a happy life and a meaningful life. *The Journal of Positive Psychology*, 8 (6), 505-516.

●総合型選抜 12月入試

【小論文】（試験時間：60分）

以下の文章を読んで、二つの設問に答えなさい。

わが国の児童虐待相談対応件数（※1, ※2）の増加が止まらない。図表1には、平成2年度（1990年度）から令和4年度（2022年度）までの児童虐待相談対応件数の推移が示されている。平成2年度には1,101件であった件数は年々増加を続け、令和4年度における件数（速報値）は219,170件となった。過去30年あまりの間に、児童虐待相談対応件数は実に約200倍に増加したのである。直近10年間でさえ、3倍を超える伸びを示している。

▶図表1 児童虐待相談対応件数の推移および令和4年度の速報値

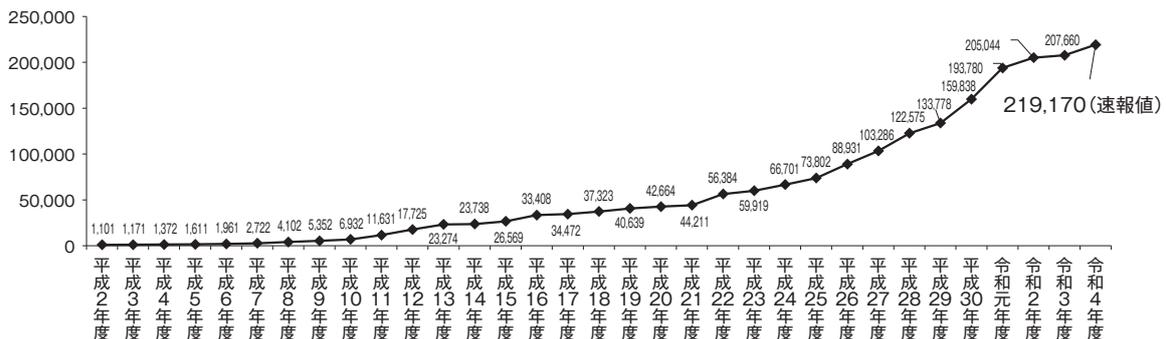
児童相談所における虐待相談対応件数とその推移

○令和4年度中に、全国232か所の児童相談所が児童虐待相談として対応した件数は**219,170件（速報値）**で、過去最多。

- ※ 対前年度比+5.5%（11,510件の増加）（令和3年度：対前年度比+1.3%（2,616件の増加））
- ※ 相談対応件数とは、令和4年度中に児童相談所が相談を受け、援助方針会議の結果により指導や措置等を行った件数。

【主な傾向】

- ・ 心理的虐待に係る相談対応件数の増加（令和3年度：124,724件→令和4年度：129,484件（+4,760件））
 - ・ 警察等からの通告の増加（令和3年度：103,104件→令和4年度：112,965（+9,861件））
- （令和3年度と比して児童虐待相談対応件数が増加した自治体への聞き取り）
- ・ 関係機関の児童虐待防止に対する意識や感度が高まり、関係機関からの通告が増えている。



（注）平成22年度の件数は、東日本大震災の影響により、福島県を除いて集計した数値。

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 （速報値）
件数	59,919	66,701	73,802	88,931	103,286	122,575	133,778	159,838	193,780	205,044	207,660	219,170
対前年度比	+6.3%	+11.3%	+10.6%	+20.5%	+16.1%	+18.7%	+9.1%	+19.5%	+21.2%	+5.8%	+1.3%	+5.5%

出典：こども家庭庁 令和4年度児童相談所における児童虐待相談対応件数（速報値）

とはいえ、国や自治体も現状を黙って見過ごしてきたわけではない。たとえば、平成21年（2009年）には「児童相談所全国共通ダイヤル」が開設され、110番や119番と同様に3桁の「189番」で最寄りの児童相談所に電話が繋がる仕組みが作られた。平成28年（2016年）には児童福祉法が一部改正され、児童相談所（※3）をはじめ、市町村の支援体制や専門性が強化された。この法改正で東京23区でも新たに児童相談所が設置できるようになり、現在では世田谷区など8区が区立の児童相談所を開設している。また、全国の児童相談所で相談支援に当たる専門職である「児童福祉司」は、平成29年（2017年）から令和3年（2021年）にかけて約1.6倍の人数を目標とした増員が図られた。さらに、本年2023年には、子どもの健全育成に関わる政策を統括する「こども家庭庁」が国に新設されている。

厚生労働省によると、児童虐待の危険を高める因子には、保護者の性格や疾患などの特性をはじめ、望まない妊娠や10代の妊娠、夫婦関係に問題がある家庭など、いくつかの要因があるといわれている。一見すると、これらの危険因子がある家庭や親子への支援体制は整ってきているようにも見えるが、なぜ児童虐待相談対応件数の増加が続くのだろうか。

設問 1

あなたは、児童虐待相談対応件数が右肩上がりの増加を続けている理由や背景に、どのような原因や要因があるか。あなた自身の仮説（※4）を示し、なぜそのような可能性があると考えられるのか具体的に説明せよ（400字以内）。

設問 2

あなたが設問1で考えた仮説が、正しいか正しくないかを実際に調べて確認したい場合、どのような方法が適切だと考えられるか。あなたが考える仮説の調べ方（手続き、方法など）について、できる限り具体的に説明せよ。なお、設問1で示した仮説が複数ある場合には、いずれかひとつの仮説を明示して、それについて論じること（400字以内）。

【用語の説明】

※1 児童虐待

18歳未満の児童に対して保護者等が行う不適切な行為のこと。(1)身体に外傷が生じるおそれがある暴行(身体的虐待)、(2)わいせつな行為をしたり、させたりすること(性的虐待)、(3)必要な養育をせずに放置すること(保護の怠慢・ネグレクト)、(4)暴言・拒絶や夫婦間の暴力を見せるなど、心理的外傷を与えること(心理的虐待)の4種類がある。

※2 児童虐待相談対応件数

毎年、全国の児童相談所が児童虐待としての相談や連絡(通告)を受けつけ、対応を検討する会議の結果を踏まえて指導や措置等を行った件数を集計した数値。

※3 児童相談所

児童福祉法に基づき、都道府県や政令指定都市などが設置する相談機関。原則として18歳未満の児童に関わる育児、虐待、非行、障害などの相談を受けつけ、必要な支援や措置をおこなっている。

※4 仮説

ある現象の背景や因果関係などについて理論的に説明することができそうな仮の説であり、正しいか正しくないかはまだ不明であるもの。

●学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）

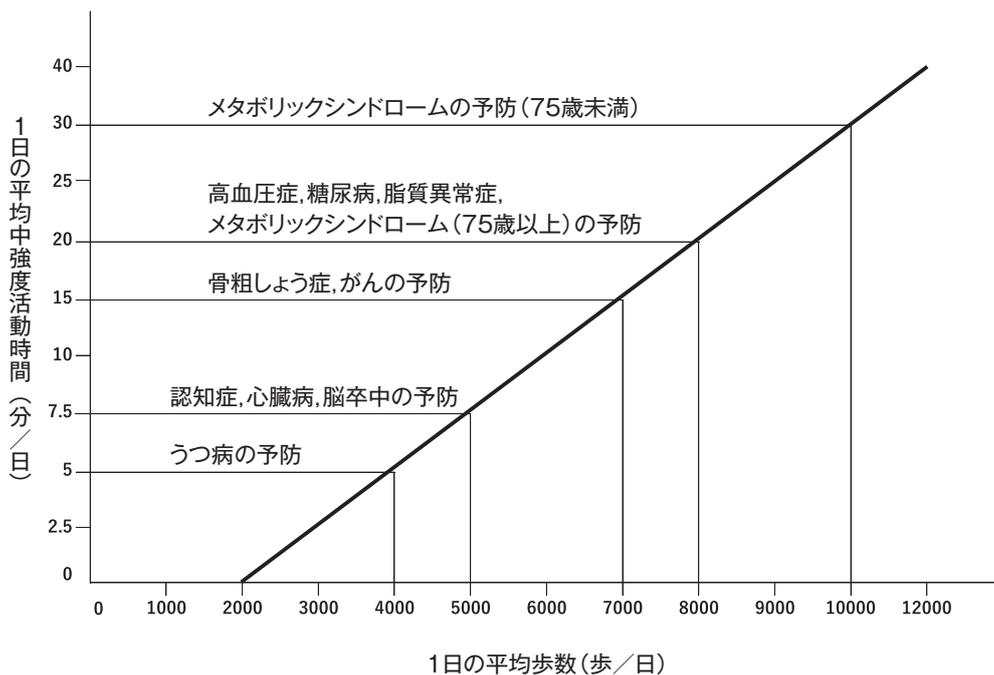
【小論文】（試験時間：60分）

以下の文章を読んで、次の二つの設問に答えなさい。

生活習慣の3本柱は食事（栄養）、運動、休養（睡眠）である。生活習慣病とは「食習慣・運動習慣・休養・喫煙・飲酒等の生活習慣が、その発症や進行に關与する疾患群（厚生労働省公衆衛生審議会，1996）」である。日本人の三大死因であるがん、脳血管疾患、心臓病は生活習慣病であり、脳血管疾患や心臓病の危険因子となる動脈硬化症、糖尿病、高血圧症、脂質異常症などもまた生活習慣病である。

生活習慣を改善すれば生活習慣病の予防や進行に効果がある。それでは、何をどのようにすれば、どの程度の効果があるのだろうか。自分の行動をどの程度変容させれば、どのような効果が期待できるのか、それらの裏付けとして科学的根拠（エビデンス）が必要となる。たとえば、科学的根拠に基づいた「日本人のためのがん予防法（5+1）」は、①禁煙、②節酒、③食生活、④身体活動、⑤適正体重の維持の5つの生活習慣と、⑥感染予防を加えた6つである（国立がん研究センター，2023）。また、がんの標準治療とは科学的根拠に基づき、有効性と安全性が確認された最良の治療法であり、主として手術、放射線治療、薬物療法（抗がん剤）がある。大規模な研究から得た客観的データに基づいて効果検証が行われた後、科学的根拠となる。

健康の保持・増進、疾病予防における運動の科学的根拠に中之条研究がある。中之条研究とは、群馬県中之条町の65歳以上の5000人を対象として日常の身体活動と病氣予防の關係を検討した調査研究であり、2000年以降、現在まで継続されている。中之条研究による歩数と中強度活動時間と予防（改善）できる病氣の關連を図1に示した。



【出典】東京都健康長寿医療センター研究所 News No 265 (2014.11)「中之条研究」より作成

図1 歩数と中強度活動時間と予防（改善）できる可能性のある病氣の關連

設問 1

中之条研究から何が明らかとなったのか，図 1 に基づいて具体的に説明せよ（300 字以内）。

設問 2

民間療法などのように科学的根拠のない病気の治療法や，ダイエット方法などの健康情報は数多くある。ヒトを含めた生物には個体差（個人差）があるが，個人差の観点から，健康の保持・増進において，科学的根拠がなぜ重要であるのか，中之条研究を例として理由を説明せよ（600 字以内）。

引用文献

厚生労働省公衆衛生審議会（1996）. 生活習慣に着目した疾病対策の基本的方向性について
<<https://www.mhlw.go.jp/www1/houdou/0812/1217-4.html>>（2023 年 11 月 4 日）

国立がん研究センター（2023）. 科学的根拠に基づくがん予防
<https://epi.ncc.go.jp/files/02_can_prev/23_0222_E7A791E5ADA6E79A84E6A0B9E68BA0E381ABE59FBA_2.pdf>
（2023 年 11 月 4 日）

●スポーツ特待生入試

【小論文】（試験時間：60分）

設問1 アスリートは社会に必要であるかについて、あなたの立場を明確に示したうえで、そのように考える理由について800字以内で具体的に説明しなさい。

●出題意図・解答例

総合型選抜 9月入試【出題意図】

高等学校で身に付けた基本的な学力をベースに理解、思考、判断、表現ができ、かつ日常的な事象に対して興味関心を持つ姿勢、疑問を解決できる力を判断するために、文章を正確に理解し、自分なりの考え（仮設）に基づきわかりやすく表現できているかどうかを評価する。

本問においては、身近な問題であるエスカレーターの乗り方について、埼玉県エスカレーターへの安全な利用の促進に関する条例を取り上げ、条例違反の違法行為が起きている理由についてその理由を考察することができるかどうか、また、それを実証的に検討するための調査を企画できるかどうかについての解答を求め、それについて評価される。

設問1 「エスカレーターで歩くこと」「右側を空けて立つこと」のどちらを選んだかについては採点に影響しない。いずれの場合でも、了解可能な理由があげられ、それについて適切に説明されることが求められる。「エスカレーターで歩くこと」については、歩いてはいけないこと（条例）を知らないから、他にも歩いている人がいるから、右側が空いているからなどが想定される。急いでいるからという理由については、本文中で批判されているので、それに対する反論を含めて詳細な議論が求められる。「右側を空けて立つこと」については、これらに加え、歩く人に苦情を言われたくないから、歩く人に迷惑をかけたくないから、などが想定される。日常的な現象に関心をもって観察していること、その体験に基づいて論理的に理由を考えているかについて分かりやすく説明された解答が求められる。

設問2 設問1で挙げた理由が実際にあてはまるのかについて確かめるための調査になっているかどうか、という観点での妥当な解答が求められる。それが調査の目的として明記されることが期待される。実施方法については、当事者意識をもって実現可能な方法であることが求められる。質問項目としては、実態として高校生にこういった行動があるのか、ある場合それはどういった理由によるものであるのかが示される計画が求められる。集計方法については、グラフや表などを含め、調査の結果が客観的に示される意図が示されることが期待される。統計的な分析は必要とされない。また、いわゆる研究方法としての調査の企画ができていないかについては問わない。

総合型選抜 10月入試【出題意図】

本学科が求める学生像として「自他の心身の健康を守り、育てることに興味・関心のある人」がある。この点については、健康や幸福、生きる意味といったものに対してどのような考えを有しているのかによって、人生に対する態度や社会への貢献のあり方は異なってくるといえる。これを踏まえ、「幸福な人生（“happy life”）」と「意味のある人生（“meaningful life”）」の共通点ならびに相違点を取り上げ、自身がどちらを求めるのかについて立場を設定し、その理由を表現できるかどうかについての解答を求める。

設問1

「幸福な人生」と「意味のある人生」について、共通点、相違点、ならびにどちらが正しいということはないという点を理解した上で、簡潔に要約できているかをみる。

設問2

多様な人々が存在する社会において、その中のすべての人に対して一様に貢献することは、現実的には難しい。そのような中で、社会におけるどのような側面や人々に焦点を当てて貢献していきたいと考えるのかについて、自身の立場を設定した上で論理的に表現できるかをみる。なお、どちらの立場を選んだかは評価に影響しない。

総合型選抜 12月入試【出題意図】

設問1

本文では、誰しもが耳にする身近な社会問題である児童虐待の最新データと、それを取り巻く政策的な近況についての解説から、以下の2点の力量を問う。すなわち、(a) 現象の背景に想定され得る課題や問題の要因を具体的に想像する仮説生成的な論理的思考力、(b) 原因や要因の正解がひとつに定まらない現在進行形の現象に対して、多面的な立場や視点に立ちながら様々な可能性があることに気づき、その中から最も「もっともらしい」仮説を提示した上で、「私はこう思う」という考えとその根拠を他者に伝達するコミュニケーション力である。

設問2

単に「私はこう思う」という個人の意見を開陳することにとどまらず、その思いや考えを説得的に伝達するために求められるエビデンス・ベーストなコミュニケーションは、心理学の学びの根幹に関わる事項であるといえる。本問では、自らが立てた仮説に対して、それを立証・論証するために必要となるプロセスについて、ある程度の具体的な方向性や手続きを想定しながら説明することができる論理的な仮説検証的思考力を問う。

学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）【出題意図】

設問1

データを正しく解釈し、解りやすい文章で表現できるかどうかを確認する。横軸の歩数のみに着目するのではなく、縦軸にも着目する。たとえば1年間の平均歩数1日5000歩と、1年間の平均中強度活動時間7.5分が含まれる場合、認知症、心臓病、脳卒中が予防できる。1年間の平均歩数1日8000歩と、1年間の平均中強度活動時間20分が含まれる場合、あらゆる病気の予防ができる。身体活動を短期間で評価するのではなく、年単位で評価すればよいことにも気づいてほしい。

設問2

個人差を考慮すると、推奨される治療法や健康増進方法であったとしても、効果に個人差がある。しかしながら科学的根拠のない方法を自己流で実施した場合、効果がないどころか悪影響が生じる可能性がある点に言及してほしい。自分や家族、友人等の個人的経験に基づくのではなく、中之条研究に基づき、論理的に述べられているかどうかを評価する。

スポーツ特待生入試【出題意図】

この設問は、アスリートがスポーツの成果を超えて果たす様々な役割や社会の様々な側面に与える影響、アスリートの社会的意義を批判的に分析し、社会におけるアスリートの存在の多面的な性質を探究したうえで、アスリートは社会においてどのような存在であることが期待されているかについて受験者の見識を問うものである。そして、アスリートに対する社会的な期待について、自身の立場を設定したうえで、選択した立場とその理由についての解答を求め、理路整然とした説明能力を評価する。なお、明示する立場そのものについては評価に影響しない。